

## 次の100年を見据えたまちづくり

### 1. はじめに

川崎市は、首都圏主要駅へのアクセスの良さや羽田空港に近接していることなど、交通利便性が高く、日本の総人口が減少局面にあるなか、大都市の中でも人口増加率が高く、平均年齢が最も若い、活気に満ちたまちです。

また、川崎の歴史・文化に深く関わる多摩川や首都圏を代表する自然環境を有する生田緑地等の豊かな自然のほか、音楽や文化・スポーツに彩られ、全国や世界に誇れる様々な魅力と可能性も持ち合わせたまちでもあります。

一方で、世界情勢が激変する中で、確実に訪れる人口減少、厳しい財政状況など、社会経済環境の変化への対応に向け安定的な行財政運営に取り組み、また、多様な主体と協働・連携し、飛躍に向けたチャンスを活かしながら直面している様々な課題に果敢に挑戦しています。

令和4年3月には、総合計画第3期実施計画を策定しており、2つの基本目標「安心のふるさとづくり」と「力強い産業都市づくり」のもとに、めざす都市像「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」の実現に向けて取り組んでいます。

### 2. めざす都市像と交通体系

本市では、首都圏における立地を活かして、まちの魅力・活力の向上を図る「広域拠点」、産業振興の核となり経済を牽引する「臨空・臨海都市拠点」、市民生活の中心となる「地域生活拠点」の整備を進めるとともに、広域的な交通網や身近な交通環境の整備を進めるなど、広域調和・地域

連携型の都市構造を目指しています。

広域拠点の主な取組としては、川崎駅周辺では、京急川崎駅西口地区における市街地再開発事業や川崎駅西口大宮町地区における民間事業者によるエンターテインメント施設「スペルノーヴァ川崎」の開業、武蔵小杉駅周辺では、民間活力を活かし、都市機能を集積した「コスギサードアヴェニュー」や「コスギアイハグ」の開業に加え、JR武蔵小杉駅における新規改札口設置などを進めてきました。



スペルノーヴァ川崎

地域生活拠点の主な取組としては、鷺沼駅周辺において、民間活力を活かしながら都市機能の集積及び交通結節機能の強化、公民が連携した賑わい空間の創出など、市街地再開発事業の取組を着実に推進していきます。

また、交通機能の強化に向けて、横浜市高速鉄道3号線の延伸、連続立体交差事業の推進や経済活動を支え、災害時の緊急活動道路としても重要な幹線道路の整備などを進め、持続可能なまちの土台を構築していきます。

### 3. 持続的発展への挑戦

川崎臨海部は、京浜工業地帯の中核として、鉄



川崎市長 福田 紀彦

鋼業や石油・化学などの企業が集積するとともに、我が国の経済を牽引するコンビナートを形成してまいりました。とりわけ、昭和11年に最初の本格高炉に火入れして以来、本市の発展とともに、我が国の経済成長を牽引してきましたJFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等が昨年9月に休止いたしました。

400haを超える広大な跡地については、産業構造の転換期を迎えた川崎の次の100年に向けて、「SDGs未来都市」としてカーボンニュートラルと新たな産業創出の同時実現を目指しながら、未来志向の国土づくりに貢献するなど、市民の方々が誇りを持てる土地利用転換を推進していきます。

また、令和4年には、世界最先端のライフサイエンス分野の研究が進む殿町地区（キングスカイフロント）と世界との玄関口である羽田空港とがつながる「多摩川スカイブリッジ」が開通し、羽田空港周辺地域と京浜臨海部の連携が強化されました。



多摩川スカイブリッジ

海外とも接点が増加することを活かし、世界からの知識・技術・情報・人がこの地で交わることで、川崎が様々なものを結ぶイノベーション拠点

として持続的な発展を牽引していけるよう取組を進めていきます。

#### 4. おわりに

今年には川崎市が誕生してから、市制100周年という歴史的な節目を迎え、その象徴的な事業として、「全国都市緑化かわさきフェア」を川崎市において開催します。

昨年11月には、同年6月に完成した新本庁舎前に位置し、フェアのメイン会場となる富士見公園までの動線である市役所通りの車道を一時的に歩行者空間として実施したイベント、「みんなの川崎祭」を初めて開催し、これまでにないにぎわいが生まれました。



みんなの川崎祭

今後も、かわさきフェアの開催も契機として新しい取組にも積極的にチャレンジしながら、これまで培ってきた川崎の強みや各地域の特色を生かし、市民総参加型で、都市の中の緑の価値を作り上げ、次の100年を見据えたまちづくりに取り組んでまいります。